

ヒナコウモリの実物大ぬいぐるみ

実物大のヒナコウモリの大きさ（8 cm）と重さ（19g）のぬいぐるみです。直接手のひらに乗せて、本物のヒナコウモリを体感できます。



コウモリ着ぐるみ

10歳くらいの子どもが装着して、子どもコウモリの翼に骨格がどのようにつながっているかがわかる着ぐるみキットです。両手を使って翼を広げて、骨格と翼の状態が実感できます。また、繊細な翼の様子もよくわかります。直接身につけることで、まるでコウモリに変身した様な気分になります。



バットディテクター

コウモリが出す超音波は、直接人間の耳では聞くことができない高音です。それを人間が聞き取りできる音に変換して音を出す探知機で、コウモリ調査には不可欠な道具です。バットディテクターの音を聞いて、コウモリの存在を確認できます。

コウモリは自ら超音波を出して、跳ね返ってきた音を聞きながら、暗闇に何があるのか知ることができます。



教材開発前のお披露目

2017年1月22日の第5回 CISE サイエンス・フェスティバル・生トークステージ「ぜったい楽しいコウモリのお話」において、トランクキットの紙芝居試行版とワークブックのお披露目を行いました。当日は、大人から子どもまで多くの方の参加がありました。参加者からは、「コウモリがこんな身近にいることがよくわかった」「コウモリの生態について、色々と学ぶことができて良かった」。また、「コウモリワークブックのデザインがいいので、販売して欲しい」という要望もあった。

今後、これらの声を活かした改良を進める予定をしています。



「ぜったい楽しいコウモリのお話」

2017年1月22日・札幌駅前通地下歩行空間
講師：寺島淳一、司会：野谷悦子

2017年3月25日に、札幌市円山動物園で実施した「コウモリ調査報告会」では、北海道希少生物調査会の寺島淳一さんからコウモリトランクキットの全ての教材の紹介がありました。

既にコウモリに関心を持っていて参加した方が多く、コウモリ紙芝居やワークブックを熱心に見ていました。コウモリ着ぐるみも人気で、「まるでコウモリになった様だ」と好評で子どもだけでなく小柄な大人にも着用してもらいました。



「コウモリ調査報告会」
2017年3月25日・札幌市円山動物園
報告書：寺島淳一

今後に向けて

前田一步園財団からの助成のおかげで、自分たちの身近なところに暮らしているコウモリについて「人間とコウモリの距離を縮めることができた。」と確信しました。

トランクキットの使用によって、単に講義を聞くのではなくコウモリに興味や関心が高まるとともに生態への理解を深めることができました。暗く悪いイメージを抱かれていたコウモリに対して、害がある怖い生物ではなく人間にとって役に立つ身近な存在という学びによって、それまでの見方も変わってきます。トランクキットは、生物の本来の姿や生態をわかりやすく楽しく学べる教材で、生物と人をつなぐ大きな役割を担っています。CISE ネットワークの目的である、わかりやすい教材開発の基盤ができました。今後は、小学校や中学校をはじめいろいろな機会を通じて、コウモリについての学習に活用していきたいと思います。

今回、一般財団法人前田一步園財団からの助成を受けたコウモリトランク教材開発事業を通して、私たちの身近なところに暮らしている生き物や生物多様性について、多くの方々に知ってもらえる新しい教材を作ることができました。そのことに、心から御礼申し上げます。